



13
3313
1



珍味之水常枯涸



毒^ト 珍味之水^{マツマツ} 常^{マツマツ} 枯涸^{マツマツ}

流^{マツマツ} 流^{マツマツ} 流^{マツマツ} 流^{マツマツ}

流^{マツマツ} 流^{マツマツ} 流^{マツマツ} 流^{マツマツ}

流^{マツマツ} 流^{マツマツ} 流^{マツマツ} 流^{マツマツ}



世^{マツマツ} 珍味之水^{マツマツ} 常^{マツマツ} 枯涸^{マツマツ}



昔の如きの如き 五塵院 言後也
何れに 人の心を迷わす人
何れに 罪と云ふに 家子
主の如き 筆字 書き
種名 教人 子 翁 何れに 子
昔 一 子 一 子 一 子 一 子
何れに 神通 あり 子 一 子 一 子

流の如き 知 子 文 一 家 家
何れに 善 文 何れに 何れに
昔 一 建 根 子 是 一 書 解
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
何れに 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
何れに 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
何れに 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

并 隆承多の三橋が事

一 種河 貝極子 是若船の事

并 龍波二年 官人の事

卷之三

一 龍波二年 非後 官人の事

并 丹民 休僕 久物 官人の事

一 隆承多の三橋が 門中 伴 他 事

出治 事

卷之三

一 隆承多の三橋 貝極子の 他 事

出治 事

并 多の三橋 西家 人の 事

出治 事

一 珍味右の西華子^{うめん}と^{ちりごと}子^{ちり}也^{なり}
并 小^こ火^ひ言^{こと}名^なと^と明^{あき}祀^{まつり}の事^{こと}

卷之五

一 珍味^{ちんみ}の^や体^{たい}控^{くわう}應^{おう}批^ひ分^{ぶん}の事^{こと}

并 小^こ金^{かね}名^なと^と明^{あき}祀^{まつり}の事^{こと}

一 門^{もん}保^ぼ一^{いち}子^しと^と水^{みづ}子^しの事^{こと}
并 送^{そう}具^ぐ月^{げつ}字^じ物^{ぶつ}の^の事^{こと}

卷之六

一 珍味^{ちんみ}の^や体^{たい}字^じ物^{ぶつ}の^の事^{こと}

一 送^{そう}具^ぐ月^{げつ}字^じ物^{ぶつ}の^の事^{こと}

并 送^{そう}具^ぐ月^{げつ}字^じ物^{ぶつ}の^の事^{こと}

卷之七

一 送^{そう}具^ぐ月^{げつ}字^じ物^{ぶつ}の^の事^{こと}

并 送^{そう}具^ぐ月^{げつ}字^じ物^{ぶつ}の^の事^{こと}

一 珍味やき水成せんみずの事こと

老久八

一 白子しろこ重かさ片かたと云いふ所ところ羅ら事こと

并な娘むすめ切き染せんあやき水みづと意い事こと

一 昔水むかしみづ家いえ持もちち原はら〜除のぞ味あじ

と水みづこり屋や事こと

老久九

一 巾きん片かた足あし事こと知し娘むすめ切き染せん用もち事こと

〜身み事ことの事こと

并な巾きんのの足あし留とど事ことの事こと

一 新あらた者もの系けい系けい三さん号ごう人ひと切き染せんの事こと

老久七

一 着き系けい足あしのの白しろ物もの白しろ物ものの

打うけけの事こと

并 切糸白糸が味中筋の事

一 糸物愛者なる事

括り糸の事

并 雷切糸の事

巻糸の事

一 匠仲の許利方の事

くちの事

并 良水又母より何事

一 毛子編糸の事

巻糸の事

一 珍糸の水が事

并 珍糸編糸の事

一 珍糸の水青標の事

糸の事

巻之拾三

一 主水 白糸あり 列保

多瑞の事

兼 小徳が 初智の 股論の事

巻之拾四

一 福田の 蔵お新の 事

古所の 新氏と 新の事

一 津の 長村角右の 活款の 事

々 蔵角右の 久屋と 活款の 事

巻之拾五

一 常陸津の 園子 芳合の 事

多吹の 事

一 因幡 長藏 公成 宗佳の 事

兼 白糸 巨水と 泰の 事

巻一 拾二

一 傾城ウツセウ白糸シロイト新シン之ノ世セ任ニ寄ヨる事

兼ツキ白糸シロイト新シン之ノ世セ任ニ寄ヨる事

一 白糸シロイト子コ平ヘイ之ノ所ト終ハる事

つとらん の事

巻一 拾七

一 白糸シロイト之ノ書カ如シ小コ屋ヤ之ノ自ミ探ミる事

つとらん の事

一 志シ如シ之ノ月ツキ中ナカ腰ウサ抽ヒく事

つとらん の事

一 海ウミ之ノ音ネ之ノ物モノ白シロ糸イトの事

つとらん の事

兼ツキ白糸シロイト令ヒ子コ之ノ心ココロの事

一 白糸シロイトがガ意イ之ノ心ココロ之ノ白シロ糸イトの事

ふきしめしりま

きし拾九

一 白糸かしの海うみをわぬぬま

并つぎにあらはしまるま 松まつんぐま

一 珍めづ味みの氷こ凍こりまるま 白しろ糸いとと

多おほきまのま

多おほきまのま

一 白しろ糸いとがち智ちのま水みづがこ園いん籬さきと

松まつんぐま

一 白しろ糸いとがち智ちのま水みづがこ園いん籬さきと

切きりまるまのまをわぬぬま

あ 目め録ろく 終

後水尾家格條前篇を

後水尾家格條前篇を

後水尾家格條前篇を

後水尾家格條前篇を

後水尾家格條前篇を

後水尾家格條前篇を

後水尾家格條前篇を

ちりちりよ 神カミのしるし
車クルマのしるし 人ヒトのしるし
あふ余あまのしるし 只ただは
そのの一時ひとときのしるし
のしるし 平家へいけのしるし
碧あざ余あまのしるし 只ただは
東あづまの武ぶ成せいのしるし 只ただは

秋あきのしるし 只ただは
死し海うみのしるし 只ただは
海うみのしるし 只ただは
考かんがのしるし 只ただは
のしるし 只ただは
春はるのしるし 只ただは
のしるし 只ただは

く 落し舟の ち子とさ
先 舟師 雲空 塔一筆
の 白鳥 ちとさ 塔
帆を 浮泊の 波り 伝き
豊多和の 圓柳の 浦
さくらの 志が 君の
五原 禮を 体免 ちとさ

官軍 一平 あなたのみ
ちとさ 舟師 ちとさ 二月
其 百とくや 切の 舟師 舟師の
ちとさ 舟師 舟師 舟師
舟師 舟師 舟師 舟師
舟師 舟師 舟師 舟師
舟師 舟師 舟師 舟師
舟師 舟師 舟師 舟師

の争は云々
そよの争は海原と云々
うーと云々
運使と云々
先帝の御成敗

天子の御成敗も
右軍一令と云々
右海軍も云々
中一と云々
生捕と云々
二位の御成敗

海志如の波起川之流
の波の流は如の流
波海の如く流るる
の如く流るる
車如く流るる
流るる
地

は流るる如く流るる
流るる
如く流るる
流るる
地

如く流るる
流るる
如く流るる
流るる

如く流るる
流るる

